

2 男女別人口

ー性比は低下傾向ながらも 104.5 と依然高いー

本市の人口を男女別にみると、男性が728,525人(構成比51.1%)、女性が696,987人(同48.9%)で男性が女性よりも31,538人多く、性比(女性100人に対する男性の数。数値が100より大きいと男性が女性の数を上回っていることを示します。)は104.5となりました。

前回調査と比べると、女性は57,056人(8.9%)増加、男性は41,445人(6.0%)増加しており、増加率で女性が男性を上回ったため、性比は2.9ポイントと大きく低下しました。

性比の推移をみると、本市は第1回国勢調査(大正9年実施)以降一貫して男性人口が女性人口を上回っており、昭和15年調査の122.4をピークに110前後と高い水準で推移していました。しかし、平成7年調査からは低下し続けており、今回の調査では104.5と大正9年の次に低くなりました。(表7)

表7 男女別人口の推移

年次別 区別	総人口		男		女		性比
	実数	増加率(%)	実数	増加率(%)	実数	増加率(%)	
大正 9年	85 189		43 454		41 735		104.1
14年	113 034	32.7	58 180	33.9	54 854	31.4	106.1
昭和 5年	148 165	31.1	76 483	31.5	71 682	30.7	106.7
10年	191 700	29.4	99 820	30.5	91 880	28.2	108.6
15年	300 979	57.0	165 673	66.0	135 306	47.3	122.4
22年	252 923	△ 16.0	133 714	△ 19.3	119 209	△ 11.9	112.2
25年	319 226	26.2	166 023	24.2	153 203	28.5	108.4
30年	445 520	39.6	231 894	39.7	213 626	39.4	108.6
35年	632 975	42.1	334 490	44.2	298 485	39.7	112.1
40年	854 866	35.1	451 537	35.0	403 329	35.1	112.0
45年	973 486	13.9	511 073	13.2	462 413	14.6	110.5
50年	1 014 951	4.3	532 890	4.3	482 061	4.2	110.5
55年	1 040 802	2.5	543 269	1.9	497 533	3.2	109.2
60年	1 088 624	4.6	569 061	4.7	519 563	4.4	109.5
平成 2年	1 173 603	7.8	617 425	8.5	556 178	7.0	111.0
7年	1 202 820	2.5	629 804	2.0	573 016	3.0	109.9
12年	1 249 905	3.9	649 997	3.2	599 908	4.7	108.3
17年	1 327 011	6.2	687 080	5.7	639 931	6.7	107.4
22年	1 425 512	7.4	728 525	6.0	696 987	8.9	104.5
川崎区	217 328	6.6	115 800	6.4	101 528	6.9	114.1
幸区	154 212	6.7	78 882	5.8	75 330	7.7	104.7
中原区	233 925	11.1	121 046	9.6	112 879	12.8	107.2
高津区	217 360	7.7	109 905	5.8	107 455	9.8	102.3
宮前区	218 867	5.3	109 096	3.7	109 771	6.9	99.4
多摩区	213 894	4.1	110 844	2.5	103 050	6.0	107.6
麻生区	169 926	11.0	82 952	9.2	86 974	12.7	95.4

(注)平成22年の市域に組み替えた人口です。

ーすべての区で性比が低下、宮前区と麻生区で100を下回るー

区別に性比をみると、すべての区で前回調査より低下しました。臨海部に大規模な工場群を持つ川崎区が114.1(前回114.7)となり、最も高い値を示しています。次いで、多摩区の107.6(前回111.3)、中原区の107.2(同110.4)、幸区の104.7(同106.6)、高津区の102.3(同106.2)、宮前区の99.4(同102.4)と続き、最も低いのは、麻生区の95.4(同98.4)となり、宮前区と麻生区では女性の人口が男性の人口を上回りました。(表7)

一性比は45歳～49歳が最も高い

本市の年齢（5歳階級）別に人口の性比をみると、0～4歳の105.4から15～19歳の106.1までほぼ横ばいで、20～24歳で115.5に上昇し、25～29歳、30～34歳、35～39歳でやや低下するも、40～44歳で113.0と再び上昇し、45～49歳で116.4まで上昇し、この階級が最も高くなっています。50～54歳以降は一貫して低下し、65～69歳の97.2で100を下回り、85～89歳では48.6と女性2人に対し男性が1人の割合を下回っています。

20～24歳から50～54歳までの年齢階級で110を超えており、生産年齢人口の性比が高いことがわかります。（表8・図3）

一全国の性比は15歳～19歳が最も高い

一方、全国の年齢（5歳階級）別の性比をみると、15～19歳の105.3が最も高く、次いで10～14歳と5～9歳の104.9となっています。

また、本市と全国の性比で最も乖離している階級は、45～49歳の15.8ポイントで、次いで20～24歳の12.1ポイント、25～29歳の11.8ポイント、40～44歳の11.6ポイントとなっており、20～59歳の階級で乖離が大きくなっています。

本市が全国を下回った階級は5～9歳と10～14歳、100歳以上の階級のみで、その他の階級では本市が上回っています。（表8・図3）

図3 全国・川崎市の年齢（5歳階級）別性比

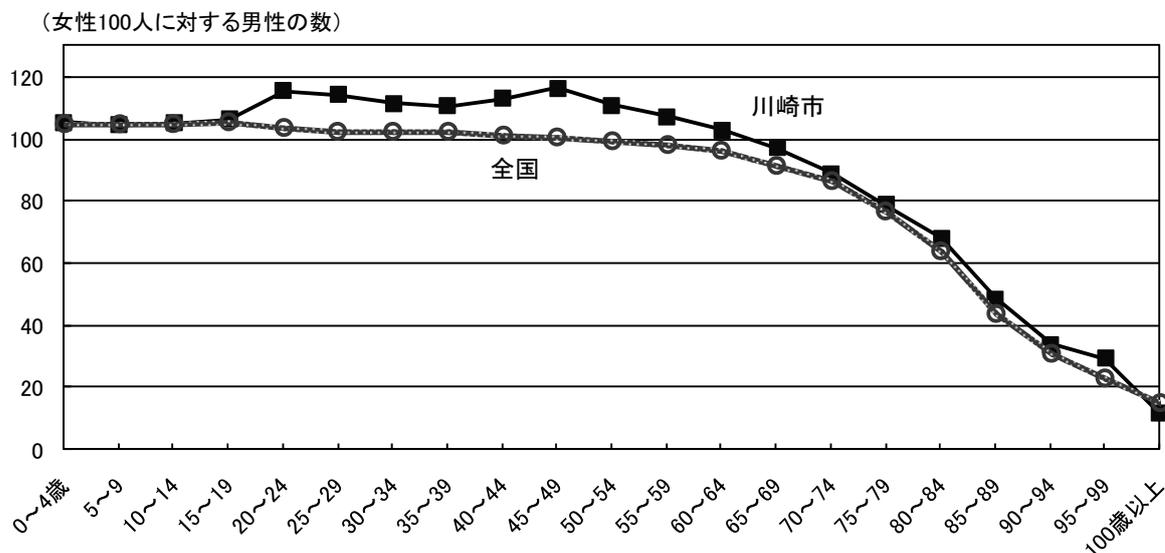


表8 全国・川崎市の年齢（5歳階級）別性比

年齢別 (5歳階級)	川崎市 a	全国 b	比較 (a-b)	年齢別 (5歳階級)	川崎市 a	全国 b	比較 (a-b)	年齢別 (5歳階級)	川崎市 a	全国 b	比較 (a-b)
0～4歳	105.4	104.8	0.6	35～39歳	110.4	102.4	8.0	70～74歳	88.8	86.3	2.5
5～9歳	104.3	104.9	△0.6	40～44歳	113.0	101.4	11.6	75～79歳	78.7	76.9	1.8
10～14歳	104.9	104.9	△0.0	45～49歳	116.4	100.6	15.8	80～84歳	68.2	64.0	4.2
15～19歳	106.1	105.3	0.9	50～54歳	110.9	99.3	11.5	85～89歳	48.6	44.1	4.5
20～24歳	115.5	103.4	12.1	55～59歳	107.1	98.0	9.1	90～94歳	34.0	31.0	2.9
25～29歳	114.3	102.5	11.8	60～64歳	102.8	96.2	6.6	95～99歳	29.3	23.1	6.2
30～34歳	111.5	102.4	9.0	65～69歳	97.2	91.5	5.8	100歳以上	11.8	15.4	△3.6

一低下傾向ながらも 20 大都市で最も高い性比一

20 大都市の性比を比較すると、本市が 104.5 で、最も高くなっています。

男性人口が女性人口を上回っているのは、本市の他には相模原市（101.5）横浜市（100.6）、さいたま市（100.0）の 4 市のみとなっています。特に本市の性比は、第 2 位の相模原市を 3.0 ポイント上回り、大都市の中では突出して高い値になっており、男性人口が多いという本市の人口構成の特徴を示しています。

前回調査と比較すると、静岡市と北九州市でわずかに上昇した他は、全ての大都市で低下し、本市は 2.8 ポイントと大都市で最も大きく低下しました。

また、全国では 0.5 ポイントの低下となっており、性比の低下は全国的な傾向となっています。なかでも、20 大都市の平均は 0.9 ポイントの低下となっており、大都市のほうが顕著にその傾向を示しています。（表 9・図 4）

図 4 20 大都市の性比(平成 22 年)

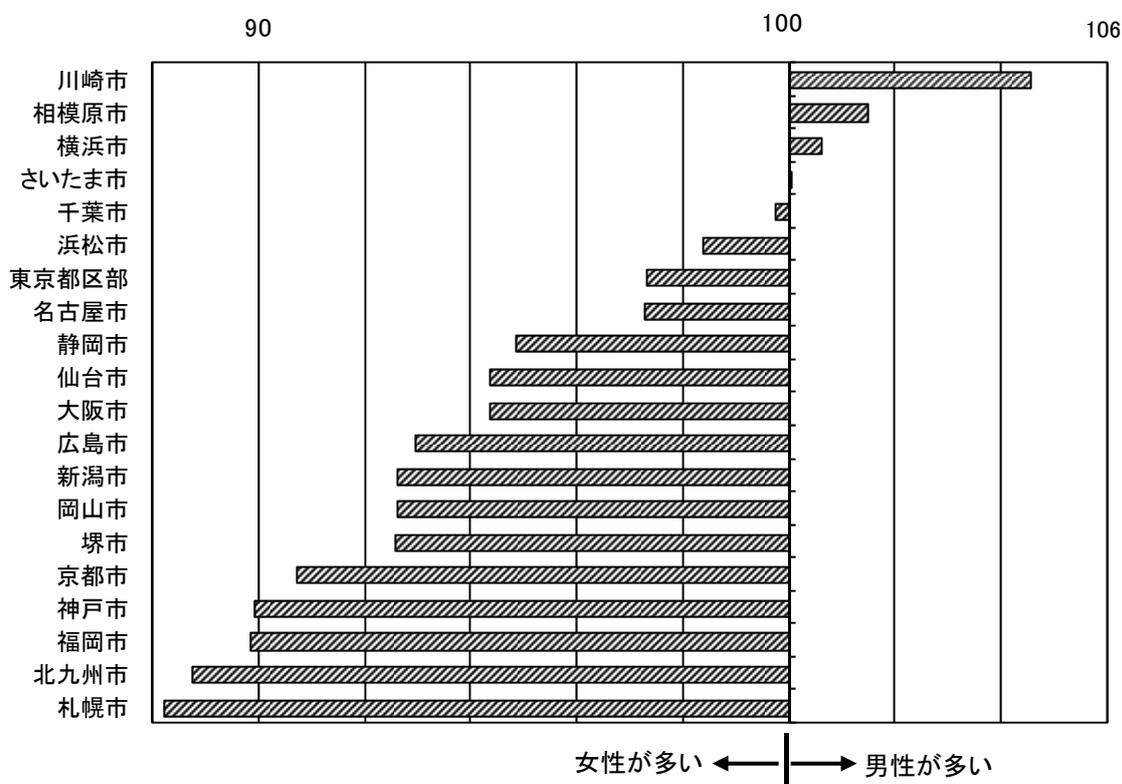


表 9 20 大都市別性比

都 市 別	性比(女性100人に対する男性の数)		増 減 (ポイント)	都 市 別	性比(女性100人に対する男性の数)		増 減 (ポイント)
	平 成 17 年	平 成 22 年			平 成 17 年	平 成 22 年	
札幌市	89.6	88.2	△ 1.4	浜松市	98.9	98.4	△ 0.5
仙台市	95.4	94.4	△ 1.1	名古屋市	98.6	97.3	△ 1.3
さいたま市	101.0	100.0	△ 1.0	京都市	91.1	90.7	△ 0.4
千葉市	100.3	99.7	△ 0.6	大阪市	94.9	94.3	△ 0.6
東京都区部	98.4	97.3	△ 1.1	堺市	92.9	92.6	△ 0.3
川崎市	107.4	104.5	△ 2.8	神戸市	90.4	89.9	△ 0.5
横浜市	101.6	100.6	△ 1.0	岡山市	92.7	92.6	△ 0.1
相模原市	103.0	101.5	△ 1.5	広島市	94.0	93.0	△ 1.0
新潟市	93.2	92.6	△ 0.6	北九州市	88.6	88.7	0.1
静岡市	94.8	94.8	0.0	福岡市	92.4	89.8	△ 2.6
全 国	95.3	94.8	△ 0.5	大都市平均	96.0	95.0	△ 0.9

(注)平成22年の市域に組み替えた人口です。